

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

2016年『ゴールデンウィーク』動向調査

県内の人出は前年比+1.5%増 ~1日平均では+21.8%増

- 今年のゴールデンウィーク（GW）期間中（10日間：4月29日～5月8日）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（232カ所）の人出は延べ765万人で、前年（12日間：4月25日～5月6日、754万人）より2日間短いものの、全体の人出は前年比+1.5%の増加となった。1日平均では76.5万人で、昨年（62.8万人）と比べ+21.8%の増加となり、県内各地は大勢の人出で賑わった。
- 今年の特徴は、好天に恵まれたこと、飛び石連休のため近場で短期の旅行を楽しむ傾向が強まったことで、「浜松まつり」「シズオカ・サンバカーニバル」などの「イベント・祭り」（+12.0%）や、話題の「韮山反射炉」「浜松城」などの「博物館、美術館、歴史資料館」（+3.7%）が前年を上回った。一方、「交流拠点」（△5.2%）や「アミューズメント施設、参加・体験型施設」（△0.1%）では、屋外型施設は好調だったものの、屋内型が苦戦するなど明暗が分かれた。
- レジャー需要をめぐる地域間競争が激化する中、外国人観光客が増えた施設・イベントも約4分の1に上る。県内の各観光施設には、コンテンツに一層磨きをかけ、地域全体としての魅力をさらに高めていくことを期待したい。

担当:田原 真一

2016年ゴールデンウィーク集客動向調査

県内の人出は前年比+1.5%増 ~1日平均では+21.8%増

- 今年のゴールデンウィーク（GW）期間中（10日間：4月29日～5月8日）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（232カ所）の人出は延べ765万人で、前年（12日間：4月25日～5月6日、754万人）より2日間短いものの、全体の人出は前年比+1.5%の増加となった。1日平均では76.5万人で、昨年（62.8万人）と比べ+21.8%の増加となり、県内各地は大勢の人出で賑わった。
- 今年の特徴は、好天に恵まれたこと、飛び石連休のため近場で短期の旅行を楽しむ傾向が強まったことで、「浜松まつり」「シズオカ・サンバカーニバル」などの「イベント・祭り」（+12.0%）や、話題の「葦山反射炉」「浜松城」などの「博物館、美術館、歴史資料館」（+3.7%）が前年を上回った。一方、「交流拠点」（△5.2%）や「アミューズメント施設、参加・体験型施設」（△0.1%）では、屋外型施設は好調だったものの、屋内型が苦戦するなど明暗が分かれた。
- レジャー需要をめぐる地域間競争が激化する中、外国人観光客が増えた施設・イベントも約4分の1に上る。県内の各観光施設には、コンテンツに一層磨きをかけ、地域全体としての魅力をさらに高めていくことを期待したい。

浜松まつりがけん引した西部地域は増加 東部・中部地域は伸び悩む

今年のゴールデンウィーク（以下、GW）は、4月29日（金）から5月8日（日）までの10日間で、3連休が2回の飛び石となり、人出が分散化しやすい曜日配列であった。また、静岡地方気象台の発表によると、5月3日の深夜こそ大雨に見舞われたものの、晴天の日が多く、過ごしやすい天候となった。

こうした好天に恵まれたことや、近場で短期の旅行を楽しむ傾向が強まったことから、静岡県内のGWの主なイベントや観光施設232カ所の人出は延べ765万人で、前年（12日間：4月25日～5月6日）より2日間短いものの、全体では+1.5%増加。1日平均にすると76.5万人で、昨年（62.8万人）と比べ+21.8%の増加となり、県内

各地は大勢の人出で賑わった（詳細は23頁、図表4参照）。

地域別にみると、西部地域は、恒例の「浜松まつり」が雨でイベントの一部が中止になった前年を3割上回る40万人以上を上積みし、地域全体で前年比+9.8%の伸びとなった。一方、中部地域では、「シズオカ・サンバカーニバル」が前年比2割増の16万人を集めたが、人出が減少した施設・イベントも多く、地域全体では同△6.0%減少した。東部地域は、ファミリー向け施設や博物館などが堅調だったが、前年を△3.6%下回った。

なお、5万人以上を集客したイベントや施設は図表1の通りである。

以下、GWのイベントや観光施設を6つのグループに分けて、今年の特徴をみていく。



▲好天に恵まれ、盛況だった浜松まつりの凧揚げ大会



▲街中に多くの人が詰め掛けたシズオカ・サンバカーニバル

1. 交流拠点 (36カ所)

<人出 306.3万人 前年比 △5.2% >
～道の駅や屋内型施設が前年を下回る～

交流拠点は、昨年に引き続き大型商業施設が多くの人を集めたが、全体では306.3万人(前年比△5.2%)と、前年を下回った。

このうち、「道の駅」は、回答のあった16施設中10施設で前年水準を割り込み、「道の駅 潮見坂」(湖西市)や「道の駅 朝霧高原」(富士宮市)などは2ケタの落込みとなった。それぞれ、アサリの生育不足で浜名湖の潮干狩り大会が中止になったことや、『ニュースで国道の渋滞が報じられ、富士宮方面への移動をためらう人々が多かった』(富士宮市の観光施設)ことがマイナスに作用したとみられる。

そのほか、屋内イベントの実施会場となる「グランシップ」(静岡市)や「ツインメッセ静岡」(静岡市)も、ともに2ケタ減となった。

2. イベント・祭り (32カ所)

<人出 271.3万人 前年比 +12.0% >
～好天に恵まれ、イベントの人出は好調～

県内のイベントや祭りの集客数は、271.3万人と、前年比+12.0%増加した。GW最大のイベント・祭りである「浜松まつり」(浜松市)は、前年は2日目の夜に雨に見舞われ、御殿屋台の引き回しが中止になったが、今年は3日間とも好天に恵まれ、期間合計で前年を+30.9%上回った。「シズオカ・サンバカーニバル」(静岡市、前年比+23.1%)も、近隣で実施されたイベントとの相乗効果もあって、来場者数を大きく伸ばした。

図表1 静岡県内のGW集客5万人以上のイベント、施設

	イベント、施設名	集客人数	前年比		イベント、施設名	集客人数	前年比
1	浜松まつり(浜松市)	173.8万人	+30.9%	8	姫の沢公園・花まつり(熱海市)	7.6万人	+38.2%
2	シズオカ・サンバカーニバル(静岡市)	16.0万人	+23.1%	9	浅間大社 やぶさめ祭(富士宮市)	7.0万人	△12.5%
3	富士川楽座(富士市)	12.5万人	+3.3%	9	由比桜えびまつり(静岡市)	7.0万人	±0.0%
4	藤まつり(藤枝市)	12.5万人	△17.3%	11	焼津さかなセンター(焼津市)	6.4万人	△14.1%
5	道の駅 伊東マリンタウン(伊東市)	11.4万人	+0.3%	12	静岡市立日本平動物園(静岡市)	6.1万人	△4.5%
6	道の駅 朝霧高原(富士宮市)	8.2万人	△13.2%	13	静岡競輪場(静岡市)	5.9万人	+19.6%
7	浜名湖ガーデンパーク(浜松市)	8.0万人	△8.7%				

一方、「池田・熊野の長藤まつり」（磐田市、前年比△74.6%）、「東光寺長藤まつり」（牧之原市、同△39.8%）などの花関連イベントは、4月中旬から温暖な日が続き、『GWに入る前に見頃を迎えたため、連休後半の入込客数が失速した』といった声が聞かれ、前年実績を下回った。

また、来年放送開始予定のNHK大河ドラマの主役“井伊直虎”にゆかりのある「龍潭寺」（浜松市）の「新緑・さつきまつり」には、前年比2倍超の7,000人以上が訪れた。

3. アミューズメント施設、参加・体験型施設（70カ所）

<人出 106.4万人 前年比 △0.1% >

～屋外型が好調、屋内型は苦戦～

アミューズメント施設や参加・体験型施設の来場者は106.4万人（前年比△0.1%）で前年並みとなった。

このうち参加・体験型施設は、来場者が93.1万人と前年比+0.4%の微増となった。そのなかでも、晴天の日が多かったことから、多くの屋外型施設で来場者数が前年を上回った。特に「静岡競輪場」（静岡市、同+19.6%）では、『芸人やタレント、キャラクターショーのステージイベントを実施。ファミリー層や20～40代、女性の来客が目立った』と、既存ファン以外の来場者を取り込み、集客増に結びつけた。

キャンプ場は、総じて天候に恵まれたことから、大型施設を中心に来場者を伸ばし、前年を+12.2%上回った。ただし、『5月3日～4日にかけての大きな低気圧の通過を見越したキャンセルが多数発生した』（川根本町のキャンプ場）ことが響き、回答のあった13施設のうち8施設は前年から減少した。

一方、屋内型施設は『トリック3Dアート魔法の絵画展が好評だった』（静岡ホビースクエア、静岡市、同+69.5%）など、ユニークな企画を打

ち出して集客を伸ばす施設が散見されたものの、全体としては苦戦を強いられた。

映画館は、ヒット作が少なく、屋外に人出が流れたことが響いて、前年比△13.8%の減少となった。

4. 動植物園・水族館（21カ所）

<人出 44.0万人 前年比 △1.8% >

～中・西部が振るわず、東部は健闘～

動植物園・水族館は全体で44.0万人と、前年を△1.8%下回った。西部地域では、「浜名湖ガーデンパーク」（浜松市、前年比△8.7%）や「はままつフラワーパーク」（浜松市、同△14.7%）が前年割れとなり、地域全体で同△2.9%減少。「静岡市立日本平動物園」（静岡市、同△4.5%）を含む中部地域も同△4.5%と振るわなかった。

一方、東部地域は前年を+1.7%上回った。飛び石連休のため、近場で過ごそうと考える首都圏からの家族連れが多く、「伊豆シャボテン公園」（伊東市、前年比+8.5%）、「伊豆アニマルキングダム」（東伊豆町、同+6.5%）など、伊豆半島周辺施設の好調ぶりが目立った。

5. 博物館、美術館、歴史資料館（45カ所）

<人出 23.6万人 前年比 +3.7% >

～韮山反射炉や浜松城、掛川城が好調～

博物館や美術館、歴史資料館の来場者数は、前年比+3.7%の23.6万人となった。

東部地域では、昨年7月に世界文化遺産に登録された「韮山反射炉」（伊豆の国市、前年比+37.1%）に1.9万人が訪れたほか、4月29日にリニューアルオープンした「富士山かぐや姫ミュージアム」（富士市）も前年比5倍超となる約7,600人を集め、地域全体で同+14.4%伸長した。西部地域は『全国的な城ブーム』を背景に「浜松城」（浜松市、同+24.6%）や「掛川城」（掛川市、同

+45.7%)などが来場者数を順調に伸ばし、同+10.5%増加した。

一方、前年に徳川家康公四百年祭で盛況だった「久能山東照宮」(静岡市、同△11.9%)は反動で落ち込み、地域全体でも同△7.3%の減少となった。

好天によって前年を上回る屋外施設が多かった一方、屋内施設からは『天気が良いと、どうしても来館者が減ってしまう』との声が寄せられた。

6. 日帰り温浴施設 (28カ所)

<人出 13.5万人 前年比 △7.8% >
～県内3地域とも前年を割り込む～

日帰り温浴施設は、13.5万人(前年比△7.8%)と前年を下回った。

一部の施設からは『新東名の延伸効果で、入館者が増加した』との声も聞かれたが、大半は天気の影響などから集客が伸び悩んだ模様で、東部(同△3.8%)、中部(同△9.1%)、西部(同△12.7%)と全地域で減少した。

交通量は交通機関でバラつきあるが、総じて前年を上回る

最後に、GW期間における交通機関の利用状況を見る。まず、4月28日から5月8日の東名・新東名高速道路の交通量は、1日の平均交通量が12万4,700台(中日本高速道路㈱発表)と、前年に比べて△1.2%減少した。

高速道路以外の有料道路の交通量は、前年比+4.4%増加した。浜松市の浜名湖新橋(はまゆう大橋)は、浜名湖の潮干狩り大会の中止を受けて、同△15.6%減少したものの、東部地域では、箱根スカイラインが同+11.3%上回ったほか、伊豆中央道(同+8.7%)や伊豆スカイライン(同+8.9%)も前年を上回った。

鉄道では、JR東海管内における4月24日～

5月6日までの新幹線の利用者は339.1万人と、前年比+1.0%増加した。また、県内在来線の特急列車(御殿場線、身延線)の利用客は約1.9万人で、同+1.0%の微増となった。

富士山静岡空港の利用状況(4月28日～5月8日)をみると、国内線は、全日空が3,969人(平均搭乗率54.3%)、F D Aが6,803人(同64.3%)で、合計1万772人となった。対象期間(今年11日間、前年9日間)の設定が変わったことで、全日空、F D Aともに搭乗者は増加したものの、搭乗率は低下した。

以上のように、交通機関の利用状況は、イベントの中止などにより交通量が減少した地域もあったが、総じてみると前年を上回った模様である。

コンテンツに磨きをかけ、観光地としての魅力をさらに高める

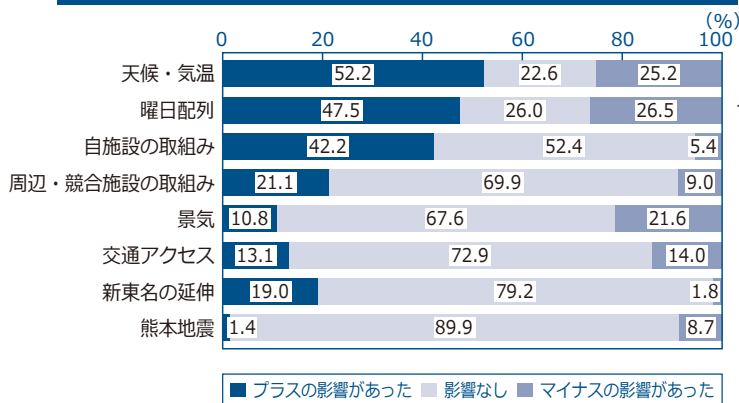
このように今年のGW期間中の県内施設・イベントへの人出は、日数が2日短いにもかかわらず、前年比+1.5%と堅調な結果となった。今回の調査で、来場者の増減要因を尋ねたところ、『天候・気温』がもっとも多く、52.2%がプラスに影響したと回答(図表2)。また、『曜日配列』についても、『昨年より連休が短い分、近場で過ごす傾向が強まり、来場者が増加した』など、47.5%がプラスと回答している。

『新東名高速道路の延伸(浜松いなさJCT～豊田東JCT)』については、『愛知や岐阜ナンバーの車が増えた』などの声が聞かれ、西部地域を中心に2割がプラスの効果を実感している。

一方、4月中旬に発生した熊本地震については、約9割が「影響なし」と回答しており、東日本大震災後に発生した“自粛ムード”のような落込みはみられなかった。

なお、来場者の消費単価を尋ねたところ、約2割が前年に比べて「プラス」になったと答えた(図

図表2 来場者の増減要因



図表3 来場者の消費単価

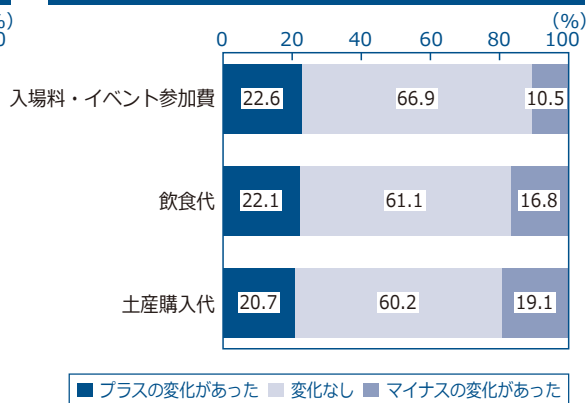


表3)。前年調査では、同割合が3割であったことを考えると、GW期間中の来場者の消費単価はやや伸び悩んでいるといえる。

また、昨年引き続き、訪日観光客について尋ねたところ、昨年より「増えた」とする県内の施設・イベントは23.6%に上り、前年調査の20.6%から3ポイント上昇した(コラム参照)。今後も、外国人観光客数の増加が見込まれる中、各施設・イベント独自の取組みに加えて、地域全体での外

国人観光客の受入体制の整備や情報発信が重要性を増している。

北陸新幹線や北海道新幹線の開業、2020年のオリンピック開業を見据えた首都圏の大規模な再開発などにより、国内外のレジャー客を奪い合う地域間競争は一段と激しさを増すものと考えられる。県内の各施設・イベントが各自のコンテンツに一層磨きをかけ、地域全体としての魅力をさらに高めていくことを期待したい。

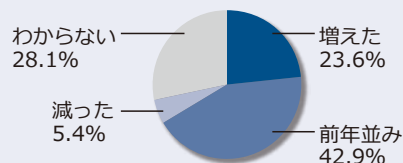
コラム 外国人観光客が増えた施設・イベントは23.6%

今回のアンケートでは、外国人観光客の動向について尋ねた。空の玄関口である「富士山静岡空港」では、利用客の5割を外国人が占め、県内の各施設・イベントでは、「道の駅 朝霧高原」や「浅間大社 やぶさめ祭」、「富士川楽座」など、富士山に近い富士市・富士宮市周辺の施設・イベントのほか、「久能山東照宮」(静岡市)や「浜松城」(浜松市)といった歴史のある観光スポットで、外国人観光客の占める割合が高い傾向がみられた。

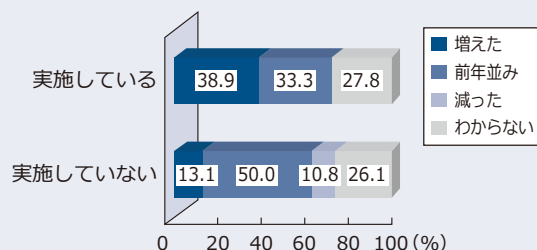
集客については、昨年よりも外国人観光客が「増えた」が23.6%と約4分の1に上り、「前年並み」が42.9%、「減った」は5.4%にとどまった(図表a)。また、外国人観光客を増やす取組みを「実施している」施設では、約4割が「増えた」と回答したのに対し、「実施していない」施設では「増えた」は1割強にとどまった(図表b)。

外国人観光客の利用を増やす具体的な取組みとしては、「外国語(2カ国語以上)での案内表示」が、24件と最も多く、次いで「銀聯(ぎんれん)カードの取扱対応」(14件)、「外国語を話せる人材の配置」(13件)が続いた。

図表a 外国人観光客の増減(前年比)



図表b 外国人観光客増加に向けた取組みと増減



図表4 2016年GW静岡県内イベント・観光施設の入出

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
富士川楽座	富士市	125,110	+3.3
道の駅 伊東マリンタウン	伊東市	114,282	+0.3
道の駅 朝霧高原	富士宮市	81,890	△13.2
姫の沢公園・花まつり	熱海市	76,000	+38.2
浅間大社 やぶさめ祭	富士宮市	70,000	△12.5
富士山こどもの国	富士市	42,398	+3.8
富士山樹空の森	御殿場市	42,060	△15.8
小室山つつじ祭り	伊東市	39,600	△15.4
白糸の滝	富士宮市	34,960	+16.8
伊豆ぐらんぱる公園	伊東市	34,349	+24.3
沼津 みなと新鮮館	沼津市	31,405	△11.7
道の駅 ふじおやま	小山町	30,561	△12.4
あさぎりフードパーク	富士宮市	26,400	△14.8
伊豆シャボテン公園	伊東市	25,277	+8.5
春のあたまビール祭り	熱海市	25,000	+25.0
伊豆アニマルキングダム	東伊豆町	22,502	+6.5
伊豆修善寺サイクルスポーツセンター	伊豆市	21,891	△3.0
道の駅 すばしり	小山町	21,580	△10.7
こいのぼりフェスティバル	沼津市	21,000	△21.6
修善寺 虹の郷	伊豆市	20,560	△14.0
三島市立公園 楽寿園	三島市	20,057	+17.2
ながはま特設市	熱海市	19,832	△6.4
道の駅 開国下田みなと	下田市	19,812	△5.8
酪農王国 オラッチェ	函南町	19,267	+5.6
韭山反射炉	伊豆の国市	19,120	+37.1
伊豆の国パノラマパーク	伊豆の国市	15,338	△19.5
沼津港大型展望水門「ひゅうお」	沼津市	13,034	△0.5
すその美人の湯 ヘルシーパーク裾野	裾野市	12,171	△2.3
松崎町田んぼを使った花畑	松崎町	10,876	△34.2
初島とこころ天まつり	熱海市	10,796	△2.3
恋人岬	伊豆市	10,080	△10.7
環境省田貫湖ふれあい自然塾	富士宮市	10,077	△12.5
沼津御用邸記念公園	沼津市	9,601	△5.4
江間いちご狩りセンター	伊豆の国市	9,354	△18.4
土肥金山	伊豆市	8,164	△10.6
下田ロープウェイ	下田市	7,989	△7.8
富士山かぐや姫ミュージアム	富士市	7,621	+458.3
富士花鳥園	富士宮市	7,537	△8.0
ごてんば市温泉会館	御殿場市	6,337	+4.2
マリンスパあたま	熱海市	5,181	△5.5
東部地域その他68カ所		1,008,903	—
東部地域 合計		2,157,972	△3.6
シズオカ・サンパカーニバル	静岡市	160,000	+23.1
藤まつり	藤枝市	124,800	△17.3
由比桜えびまつり	静岡市	70,000	+0.0
焼津さかなセンター	焼津市	63,945	△14.1
静岡市立日本平動物園	静岡市	61,034	△4.5
静岡競輪場	静岡市	59,185	+19.6
清水魚市場 河岸の市	静岡市	45,190	+5.4
富士山静岡空港	牧之原市	42,616	△6.1
久能山東照宮	静岡市	25,880	△11.9

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
静岡市立登呂博物館	静岡市	20,650	+10.2
県営吉田公園	吉田町	18,396	+12.2
グランシップ	静岡市	18,353	△14.3
大井川港朝市	焼津市	15,000	+0.0
道の駅 川根温泉	島田市	14,442	△5.9
ディスカバリーパーク焼津天文科学館	焼津市	12,633	+33.9
東海大学海洋学部博物館	静岡市	12,237	△26.0
I A I スタジアム日本平	静岡市	11,057	△56.4
体験工房 駿府匠宿	静岡市	10,720	△13.5
さがら子生れ温泉会館	牧之原市	10,587	△9.5
静岡県立美術館	静岡市	9,274	+3.8
おおくぼグリーングリーンまつり	藤枝市	8,822	+16.6
瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	7,665	△21.5
三保松原	静岡市	5,769	△17.2
中部地域その他35カ所		1,141,202	—
中部地域 合計		1,969,457	△6.0
浜松まつり	浜松市	1,738,000	+30.9
浜名湖ガーデンパーク	浜松市	80,094	△8.7
道の駅 潮見坂	湖西市	49,638	△13.0
静岡県立森林公園	浜松市	48,000	△17.2
浜松市動物園	浜松市	47,316	+1.0
うなぎパイファクトリー	浜松市	46,142	+5.9
はままつらワーパーク	浜松市	44,867	△14.7
浜名湖パレパレ	浜松市	41,574	+7.0
池田・熊野の長藤まつり	磐田市	35,000	△74.6
浜名湖競艇場	湖西市	34,133	+31.4
道の駅 掛川	掛川市	31,994	△14.9
浜松オートレース場	浜松市	30,097	△29.7
かんざんじロープウェイ	浜松市	29,026	+5.1
航空自衛隊 浜松広報館	浜松市	25,060	△8.8
浜松城	浜松市	19,342	+24.6
県営遠州灘海浜公園	浜松市	16,000	+12.7
ヤマハスタジアム	磐田市	14,379	+38.5
掛川城	掛川市	13,045	+45.7
あらたまの湯	浜松市	12,861	△8.3
浜岡原子力館	御前崎市	11,580	△24.1
浜松科学館	浜松市	11,556	+16.4
採れたて元気村	磐田市	11,386	△10.3
はまきたグリーンフェスタ	浜松市	11,200	+20.4
浜名湖めぐもりの森	浜松市	10,894	+87.8
森町体験の里 アクティ森	森町	10,845	+21.4
道の駅 天竜相津花桃の里	浜松市	10,106	△6.4
道の駅 いっぶく処横川	浜松市	7,594	+13.1
大東温泉シートピア	掛川市	7,540	△28.9
龍潭寺 新緑・さつきまつり	浜松市	7,534	+107.4
竜洋昆虫自然観察公園	磐田市	6,554	+80.3
浜名湖渚園キャンプ場	浜松市	6,282	+8.7
浜松市楽器博物館	浜松市	6,115	△0.1
道の駅 くんま水車の里	浜松市	5,960	+3.7
西部地域その他34カ所		1,041,401	—
西部地域 合計		3,523,115	+9.8
静岡県 合計		7,650,544	+1.5

注1) データ公表が可能で、入込客数が5,000人以上のイベント・施設のみを掲載した。

注2) 各地域の最下部には、入出が5,000人未満およびデータ公表を不可としたイベント・施設の数字を合算して記載した。

注3) 入出の合計値は、今年度の実数が把握可能なすべての数値を合算。

調査方法: GW期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、422先に調査票を発送、うち232カ所から回答を得た(回答率55.0%)